



国立大学法人 小樽商科大学
大学院商学研究科
アントレプレナーシップ専攻

教授

李 済民

’09年度のCSRレポートの特徴をひと言で現すと、環境保存を目的とする多彩な活動を着実に展開していることと言えます。冒頭のCSR座談会「サステナブルな社会の実現に向けて」で、円山動物園のホッキョクグマの話が象徴する通り、われわれが住んでいる今の地球環境は、年々地球温暖化の深刻な影響により、身近な動物が絶滅の危機に置かれている現実をしっかりと認識しなければいけません。地域で丸となって、何とか将来に向けて保存し、それも単発的ではなく、持続的に資源やエネルギーがうまく巡る循環型社会をつくっていくという大きな社会的使命を実現する第一歩といえるでしょう。昨年久しぶりに妻と2人で円山動物園を訪れた時に、「世界の熊館」の案内表示にコープさっぽろの文字を発見して首をかしげていたけれど、これだけ崇高なビジョンの表れだったとは知りませんでした。

この環境保全の取り組みは実に多彩な形で展開されています。まずは宅配トラックのBDF化を本格化していく事業です。また、「コープ未来(あした)の森づくり基金」を利用し、全道に植樹・育樹運動を展開しています。’08年に江別市に設立したエコセンターでは、資源を回収し、再生プラスチックや再生紙またはBDFを作っています。この他にも、そもそもごみ自体を出さない取り組みを各店舗や宅配現場で徹底しています。また環境への意識を高めるために、全道でエコ体験学習を実施しており、各地区でタウンミーティングを開催しています。このように持続的な環境保全という理念を全道レベル

で着実に展開し、より快適で住みよい北海道をつくっていくため先頭に立って行動している姿に、かつての開拓精神を垣間見ることができると言えるでしょう。

’09年のCSRレポートのもう一つの特徴として、地域の大学との連携とその成果があげられます。とりわけ室蘭工科大学との-CO₂OPプロジェクトの成果として、CO₂の総排出量を半減する新たなエコ店舗の建設を計画しています。さらに小樽商科大学と「ソーシャルビジネス」のあり方とその拡大の可能性について共同研究をしています。過疎地域ならではの新たなソーシャルビジネスの必要性和経済性について、分析とその実行においても先駆的な取り組みをしています。

経営戦略を実施していくためには、4つの“P”が大切だといいます。“未来を見る”プラン(Plan)、“過去を振り返る”パターン(Pattern)、“外との関係を築く”ポジション(Position)、最後に経営者の考え方や哲学、すなわち“頭の中を見る”パースペクティブ(Perspective)です。この4つの側面がうまく調和しないと「持続的な競争優位」を実現・維持することは困難だといいます。

コープさっぽろの場合、10数年前の経営破たんというつらい過去から見事に立ち直り、その経験をしっかりと組織内に受け止めています。より安全、安心で幸せに暮らす未来の実現のために、理事長以下組合員全員がビジョンを共有し、時には地域を巻き込みながら前進していく姿に、これからもエールを送りたいと思います。